

## CSI 委託事業 海外出張報告書

平成 22 年 3 月 12 日

出張者所属：千葉大学情報部

出張者職名：図書系職員

出張者氏名：武内 八重子

下記の通り報告いたします。

期 間	平成 22 年 1 月 28 日 ～ 平成 22 年 2 月 2 日
出張目的	ヨーロッパの各国リポジトリ連合体の実状と、DRF との連携の可能性に関する調査
用 務 先	【会場・都市・国名を記入】 (1) ドイツ（ザールブリュッケン市）、(2) フランス（パリ市）
用務内容	【用務複数の場合は用務ごとに対応させて記入】 (1) ドイツのリポジトリ連合体（The German Initiative for Network Information : DINI）の活動、特に DINI のプロジェクトのひとつである Open-Access-Statistik (OAS) を通じた DRF との連携に関する調査。 (2) リール第 3 大学を中心としたフランスの機関リポジトリの現状と、リポジトリ連合体としての連携体制確立に関する調査。
出張成果	(1) Ulrich Herb 氏、Matthias Muller 氏とザールラント大学において面談し、日本の機関リポジトリの現状および DRF の活動と DRF 参加機関のプロジェクトについて説明した。ドイツでは DINI という情報コミュニケーションに関するイニシアチブがあり、ザールラント大学はその中の OAS プロジェクトでゲッティンゲン大学などとともに活動している。OAS は、千葉大学が運用している ROAT と同種のサービスであり、ROAT と OAS とのプロジェクトのレベルで連携することが提案された。また、DRF のコミュニティを基盤として活動する各プロジェクトとドイツにおける同種のプロジェクトとの連携に関しても良好な感触が得られ、情報共有や意見交換の場としての DRF の役割を通じて各プロジェクトをサポートすることで、広範な連携が実現できる可能性がある。 (2) Joachim Schopfel 氏、Cherifa Boukacem-Zeghmouri 氏 (Univ. Lille3) および Hekene Prost 氏 (INIST-CNRS) とパリ市内で面談し、日本の機関リポジトリの現状および DRF の活動と DRF 参加機関のプロジェクトについて説明した後に、フランスの機関リポジトリの現状とリール第 3 大学における機関リポジトリの利用統計標準化の試みについて説明を受けた。フランスでは、ナショナルアーカイブ (HAL) がホストとなる共同リポジトリ型、単独のリポジトリを HAL がメタデータ・本文ともハーベストする完全アーカイブ型、また HAL がハーベストしない独立型、またハーベストもされず公開もしていない非 OA 型など様々な形のリポジトリが存在している。非 OA 型は業績評価ツールとしての意味が大きいと思われる。利用統計標準化に関して、各リポジトリ間で相互比較が可能になるような概念枠組みを提供しようとしており、OA やリポジトリのさまざまな用語の多言語語彙集の作成、機関リポジトリ統計結果報告の様式の標準化における協力ができないかといった提案があった。DRF として他のプロジェクトにおける用語も視野に入れて取り組むことが可能であると思われた。

## 【注意事項】

(1) 用務内容記載について詳細は「海外出張報告書提出に関する留意事項」参照のこと。

(2) 別途資料がある場合はあわせて添付すること。